



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3345		
科目名	英語プレゼンテーション 1		
担当教員	福田 弥夫		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	木 2		
講義室	1312	単位区分	選
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1 – E （学識・専門技能） 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 4 – F （探求力・課題解決力） 問いを設定しまたは論点を特定し、それに対する答え・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 4 – I （理解力・分析力） 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 D P 6 – K （表現力・対話力） 文章および口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ C Rコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E 1 学術・専門技能（25%） F 2 課題解決（25%） I 3 情報分析（25%） K 2 オーラル・コミュニケーション（25%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	3 発展期～4 定着期		
科目概要・キーワード	本授業は今後の危機管理の専門家に求められる国際的発信力を高めることを目的としています。内容としては、外国の危機管理についての資料を活用し、各国の危機管理がどのような課題に対応しようとしているかを検討しながら、議論やプレゼンテーションに必要とされる英語力の基盤を形成します。また、本授業は単に英語を教えるものではありません。英語を「いかに使うか」を学ぶことを目的としているため、ある程度の基礎力が必要となります。受講生の英語によるプレゼンテーションスキルを高める目的から、受講生による英語での発表とディスカッションを重視し、そのうえで今後の情報発信に必要な表現などを紹介・解説しながら授業を進めます。授業形態は演習形式となります。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 （キーワード） 情報発信力・表現力・グローバル化		
授業の趣旨	■ 副題 英語による意見発信の基盤形成 ■ 授業の目的 国際社会で危機管理について発言するには英語力が欠かせませんが、より具体的には①幅広い知識を英語で持つこと、②語彙力、③それらを駆使して表現できる能力が必要になります。本		

	授業では、危機管理をめぐる各種社会問題の動向を踏まえ、専門家による英語でのプレゼンテーションの現場で使用されている英語の表現や語彙に加えジェスチャーなどの習得を目的としています。 ■授業のポイント 英語によるプレゼンテーションは、日本で生活している場合にはあまり触れる機会がありません。その結果、単に日本語のプレゼンテーションを英訳したものにとどまっている場合や、方法がわからず戸惑うケースが目立ちます。そこでこの授業では、現代的な課題に関する質の高い英語のプレゼンテーション能力を教材とし、復唱を通じて必要な表現力や語彙力を身につけていきます。	
総合到達目標	この授業の到達目標は、①国際的な問題への幅広い視野を身につけることができる。②グローバル化の中にあって確固たる発信力を身につけることができる。③英語によるプレゼンテーションの特性を理解し、英語でのプレゼンテーションができるようになる。	
成績評価方法	■以下の方法で総合的に評価する 授業中の積極的な発言を重視します。また受講生に最低2回の英語によるプレゼンテーションを行います。 ■適用ループリック E 1 25% F 2 25% I 3 25% K 2 25% ■授業参加度 60% 授業内プレゼンテーション 40% 適用ループリック E 1 K 2 (評価基準) 発表では①授業で示したプレゼンテーションの基本を踏まえているか、②内容の精度が高く的確な語彙や表現方法を用いているか、以上を重視します。 ■フィードバック方 各自のプレゼンテーションの後に、教員及び他の受講生による評価を伝えます。	
履修条件	ある程度の英語力を備えていることが必要です。履修登録の前に事前に電子メールで履修前面談の予約を取ってください。	
履修上の注意点	国際的な事象について関心が高い学生の参加を求めます。授業においては議論や積極性を重視し、復習の程度を随時確認するため受講生には自発性と勤勉性が必要となります。また、英語によるプレゼンテーションの学修の授業であることから、文法等の基本的な解説を求める学生には適さない内容です。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の内容や進行方法、扱うテーマ、受講生が目指す到達点、評価方法について説明を行う (F 1 F 2) ③予習 (60分) この授業の予習としては、教員が事前に指定したテーマの内容及び基本語彙を学んでおくことを求める。 ④復習 (60分) この授業の毎回の復習としては、講義で使用したプレゼンテーションの内容、表現、重要単語を整理し、それらを使いこなせるように反復することを求める。
	2	①授業テーマ プレゼンテーションの基礎 1 ②授業概要 「1. プレゼンテーションを行う上での姿勢、振る舞い」、 「2. 数量データなどの表現手法としての各種グラフの紹介」、 「3. 英文参考文献の書き方や資料の表記」などの基本事項を解説する。プレゼンテーションの際の頻出表現、重要単語の紹介・解説も行う (E 1) ③予習 60分 日本語・英語を問わず、これまでプレゼンテーションの技法について大学で聞いた授業の内容を振り返り、基本的な事項を確認しておく。 ④復習 60分 授業で紹介した頻出表現や重要単語意を習得する。
	3	①授業テーマ プレゼンテーションの基礎 II 「インターネット上の情報についての判断」、「プレゼンテーションの類型化」などについて解説する。あわせてプレゼンテーションの際の頻出表現、重要単語の紹介・」解説も行う。(E 1) ③予習 (60分) 研究上のネットリテラシーについて、配慮すべき点に点について確認する。 ④復習 (60分) 授業で紹介した頻出表現・重要単語を復習する。
	4	①授業テーマ 日本語でのプレゼンテーションの実践 ②授業概要

	これまで授業で紹介してきた内容を踏まえ、自ら検討したいテーマについてのプレゼンテーションを日本語で行ってみる。フィードバックとして教員が評価する（F 1）、（F 2） ③予習 （60分） 自ら行うプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習 （60分） 教員及び他の学修者からの評価を踏まえ、自らが行った発表の課題を整理する。
5	①授業テーマ 模範例を通じた学修 ②授業概要 それぞれの分野で注目を集めている者の英語によるプレゼンテーションを視聴し、その表現や振る舞いなどを復唱を通じて身につける（E 1, K 2） ③予習 （60分） 教員が事前に伝える議論内容を自ら検討し、理解に欠かせないと思える語彙を調べ授業に臨む。 ④復習 （60分） 授業で紹介した頻出表現・重要単語を復習する。プレゼンテーションの内容について理解を深める。
6	①授業テーマ 模範例を通じた学修 ②授業概要 それぞれの分野で注目を集めているものの英語によるプレゼンテーションを視聴し、その表現や振る舞いなどを復唱を通じて身につける（E 1, K 2） ③予習 （60分） 教員が事前に伝える議論内容を自ら検討し、理解に欠かせないと思える語彙を調べ授業に臨む。 ④復習 （60分） 授業で紹介した頻出表現・重要単語を復習する。プレゼンテーションの内容の理解を深める。
7	①授業テーマ 模範例を通じた学修 ②授業概要 それぞれの分野で注目を集めているものの英語によるプレゼンテーションを視聴し、その表現や振る舞いなどを復唱を通じて身につける（E 1, K 2） ③予習 （60分） 教員が事前に伝える議論内容を自ら検討し、理解に欠かせないと思える語彙を調べ授業に臨む。 ④復習 （60分） 授業で紹介した頻出表現・重要単語を復習する。プレゼンテーションの内容の理解を深める。
8	①授業テーマ 模範例を通じた学修 ②授業概要 それぞれの分野で注目を集めているものの英語によるプレゼンテーションを視聴し、その表現や振る舞いなどを復唱を通じて身につける（E 1, K 2） ③予習 （60分） 教員が事前に伝える議論内容を自ら検討し、理解に欠かせないと思える語彙を調べ授業に臨む。 ④復習 （60分） 授業で紹介した頻出表現・重要単語を復習する。プレゼンテーションの内容の理解を深める。
9	①授業テーマ プレゼンテーションの実践 I ②授業概要 これまで授業で紹介してきた内容を踏まえ、自ら行いたいプレゼンテーションを各自が行い、発表後に質疑応答を行う。フィードバックとして教員及び他の学修者が評価する（F 1, F 2） ③予習 （60分） 自ら行うプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習 （60分） 教員及び他の学修者の評価を踏まえ、自らの発表の課題を整理する。
10	①授業テーマ 模範例を通じた学修 ②授業概要 アメリカの社会が抱える、テロ対策や政治などに関連する危機管理上の課題についての英語によるプレゼンテーションを視聴し、その表現や振る舞いなどを復唱を通じて身につける（E 1, K 2） ③予習 （60分）

	教員が事前に伝える議論内容を自ら検討し、理解に欠かせないとする語彙を調べ授業に臨む。 ④復習 (60分) 授業で紹介した頻出表現・重要単語を復習する。プレゼンテーションの内容の理解を深める。
11	①授業テーマ 模範例を通じた学修 ②授業概要 アメリカの社会が抱える、テロ対策や政治などに関連する危機管理上の課題についての英語によるプレゼンテーションを視聴し、その表現や振る舞いなどを復唱を通じて身につける (E 1, K 2) ③予習 (60分) 教員が事前に伝える議論内容を自ら検討し、理解に欠かせないとする語彙を調べ授業に臨む。 ④復習 (60分) 授業で紹介した頻出表現・重要単語を復習する。プレゼンテーションの内容の理解を深める。
12	①授業テーマ 模範例を通じた学修 ②授業概要 アメリカの社会が抱える、テロ対策や政治などに関連する危機管理上の課題についての英語によるプレゼンテーションを視聴し、その表現や振る舞いなどを復唱を通じて身につける (E 1, K 2) ③予習 (60分) 教員が事前に伝える議論内容を自ら検討し、理解に欠かせないとする語彙を調べ授業に臨む。 ④復習 (60分) 授業で紹介した頻出表現・重要単語を復習する。プレゼンテーションの内容の理解を深める。 ①授業テーマ プレゼンテーションの基礎Ⅱ 「インターネット上の情報についての判断」、「プレゼンテーションの類型化」などについて解説する。あわせてプレゼンテーションの際の頻出表現、重要単語の紹介・」解説も行う。(E 1) ③予習 (60分) 研究上のネットリテラシーについて、配慮すべき点に点について確認する。 ④復習 (60分) 授業で紹介した頻出表現・重要単語を復習する。
13	①授業テーマ 模範例を通じた学修 ②授業概要 アメリカの社会が抱える、テロ対策や政治などに関連する危機管理上の課題についての英語によるプレゼンテーションを視聴し、その表現や振る舞いなどを復唱を通じて身につける (E 1, K 2) ③予習 (60分) 教員が事前に伝える議論内容を自ら検討し、理解に欠かせないとする語彙を調べ授業に臨む。 ④復習 (60分) 授業で紹介した頻出表現・重要単語を復習する。プレゼンテーションの内容の理解を深める。 ①授業テーマ プレゼンテーションの基礎Ⅱ 「インターネット上の情報についての判断」、「プレゼンテーションの類型化」などについて解説する。あわせてプレゼンテーションの際の頻出表現、重要単語の紹介・」解説も行う。(E 1) ③予習 (60分) 研究上のネットリテラシーについて、配慮すべき点に点について確認する。 ④復習 (60分) 授業で紹介した頻出表現・重要単語を復習する。
14	①授業テーマ プレゼンテーションの実践Ⅱ ②授業概要 これまで授業で紹介してきた内容を踏まえ、自ら行いたいプレゼンテーションを各自が行い、発表後に質疑応答を行う。プレゼンテーションⅠとの違いは、より専門的に、そして長時間のプレゼンテーションを行う点である。フィードバックとして教員及び他の学修者が評価する (F 1, F 2) ③予習 (60分) 自ら行うプレゼンテーションの準備を行う。

	④復習 (60分) 教員及び他の学修者の評価を踏まえ、自らの発表の課題を整理する。 15 ①授業テーマ プレゼンテーションの実践 II ②授業概要 これまで授業で紹介してきた内容を踏まえ、自ら行いたいプレゼンテーションを各自が行い、発表後に質疑応答を行う。プレゼンテーション I との違いは、より専門的に、そして長時間のプレゼンテーションを行う点である。フィードバックとして教員及び他の学修者が評価する (F 1, F 2) ③予習 (60分) 自ら行うプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習 (60分) 教員及び他の学修者の評価を踏まえ、自らの発表の課題を整理する。フィードバックとして教員及び他の学修者が評価する (F 1, F 2) ③予習 (60分) 自ら行うプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習 (60分) 教員及び他の学修者の評価を踏まえ、自らの発表の課題を整理する。
関連科目	英語プレゼンテーション 2 (RMGT 3 3 4 6)
教科書	特に定めない。
参考書・参考URL	特に定めない。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に指示します。 ■オフィスアワー 開講時に指示します。
研究比率	全て100%

